

1. アユカケ養殖実用化試験

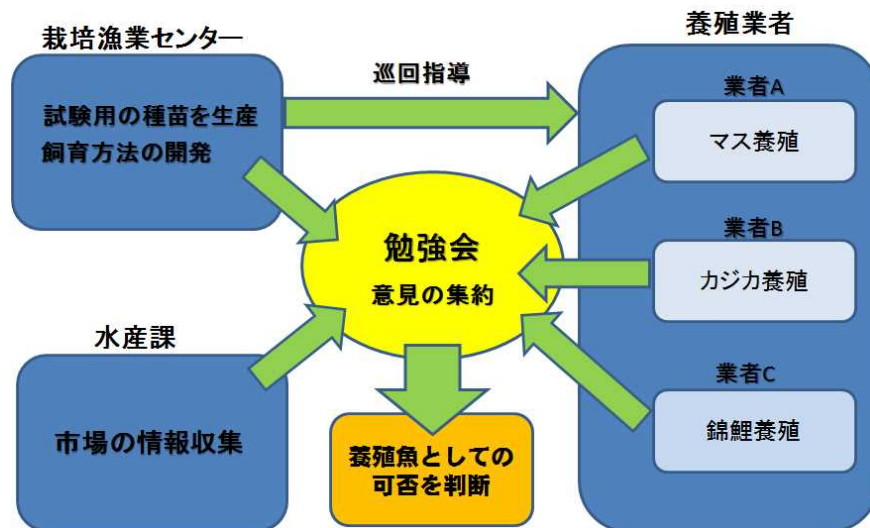
担 当：松田成史（生産技術室）

実施期間：平成 23 年度～（平成 24 年度予算額：アユカケ養殖実用化試験 1,984 千円）

目的・意義・目標設定：

- ①近年，土木建築業や，農業などの異業種からの水産養殖希望者が多く，目新しい魚を探しているが希望に添う魚種が少ない。
- ②鳥取県は海岸線の地形から，海面養殖に向けた土地は少なく，海面は漁業権が設定されているため，新規の養殖には取り組みにくい。
- ③アユカケは淡水魚の中でも美味と言われ，低水温に強いため中山間地の養殖に向いていると考えられる．そのため養殖技術が確立できれば，新しい養殖魚種となり得る。
- ④前段階の試験である地域養殖特産種創出試験において，種苗生産の技術と基本的な飼育については確立することができている。
- ⑤以上のことから，鳥取県での新規の養殖魚種としてアユカケの養殖を希望業者と共にとり組み，その養殖魚としての可否について検討する。

事業展開フロー



成果の概要

養殖試験

1) 目的

県内養殖業者と共に養殖試験を実施し，実際に養殖の現場で可能な養殖手法を確立する。

2) 方法

平成 23 年度から開始した県内養殖業者との養殖試験を引き続き行った。

業者 A: ニジマス養殖業者で，水温は，夏は 20℃程度あるが，冬は 5℃程度まで下がる。当初はパンライト水槽で養殖を行っていたが，注水が詰まって全滅したため，注水が詰まらないように新しく池を設け，平成 24 年 1 月から大型種苗を入れて飼育を開始した。

業者 B: カジカ養殖業者でカジカ養殖と同様に大型のタライを用いて試験を実施した。年間を通じて水温は低く，夏は 10℃程度，冬期には 3℃程度まで下がる。井戸水と河川水を併用した。

業者 C: 錦鯉養殖業者で，水温は冬は，10℃程度，夏の水温は 20℃程度。井戸水を注水しながら循環濾過も行う方法で飼育している。昨年度，成長は良かったが，寄生虫（白点病）の被害が大きかったため，飼育初期から銅ウールを用いて寄生虫対策をおこなった。

II. H24 成果 1 アユカケ養殖実用化試験

3) 結果

業者 A:平成 23 年度にイタチとテンの食害により試験中止した. 水温が低くて成長も望めないことから, 養殖不適として再度の試験は行わないこととした.

業者 B:大量斃死は無かったが, 冬場は 10℃でも摂時は悪い. 冬場に痩せてしまうことから, 最低水温は 12~13℃以上であることが望ましいと考えられた.

業者 C:銅ウールを用いることで, 昨年発生した寄生虫は見られなかった. 昨年度は夏場の水温上昇の予防策として, 氷を入れるなどして 18℃程度に水温上昇を抑えていたが, 今年度はそれらの対処を行わなかったため, 水温が 20℃を超えることもあった. しかしながら飼育上特に問題は見られなかった.

4) 考察(成果)

カジカ養殖の観点から渓流域での養殖を考えていたが, 水温 12℃を下回る状況では, 摂餌が不活発であり, 成長が望めない. 高水温に対しては 20℃前後でも問題なく, コイなどの養殖を行うような地域で, かつ地下水が得られる場所が望ましいと考えられる.

5) 残された問題点及び課題

養殖現場で試験を行ってきた結果, アユカケ養殖に求められる飼育方法や環境条件について解ってきたことは多いが, 環境条件については, 水温は 12-20℃の範囲で, かつ他の魚との接点が少ないことなどかなり厳しい条件を満たす必要があり, そのような場所を探すことが難しい. また, 飼育も一般的な遊泳性の魚種に比べて, 底掃除や給餌の手間と技術を要するため, 人材の確保が難しい.